令和5年度　9号　　宇都宮市立峰小学校

♪　みんなにこにこ！笑顔でつながる　おてつだい♪

チームみねっぴ～の　とくべつしえんだより

自分らしさを　発揮しながら

～　一人一人の子どもたちが，健康的な笑顔で　生き生きと活動できますように　～

厳しい寒さに耐えながら小さな蕾を付けている樹々から，元気をいただく今日この頃です。

さて，学年末を迎えている学校では，「今年度のまとめの時期」に入りました。

子どもたちと共に過ごす日々においては，関わり手である私たち大人が，子どもたちの小さな成長に気付き，共に喜び合うことを大切にしていきたいものです。その喜びの種は，実は，大きなことではなく，日々の小さなことの中にあることなのかもしれないですね。

一見，問題行動のように見える子どもの姿を見かけたときに，「もしかしたら，この子は，困っているのかもしれない。」「この子は，正しく理解していないのかもしれない。」という視点をもち，その子に合った関わり方を工夫したり，安心して見通しがもてるよう配慮をしたりすることで，一人一人の子どもたちが健康的な笑顔で，生き生きと活動できることがあります。

峰小の子どもたち一人一人が，自分らしさを発揮しながら，明るい気持ちで，生き生きと過ごすことができますよう，今後も御家庭と学校とで御協力させていただけましたら幸いです。

一人一人の大切な存在について考えさせられる　おすすめ本をご紹介！　親子読書タイムに，いかがでしょうか♡

インドの水くみ人は，ふたつの壺をもっていました。天秤棒の両端にそれぞれ壺をさげ，首の後ろで肩にかついで彼は水を運びます。壺のひとつにはひびが入っています。もうひとつの完璧な壺が，小川から御主人さまの家まで，一滴の水もこぼさないのに，ひびわれ壺は，水くみ人が水をいっぱいいれてくれてもご主人様の家に着くころには，半分になっているのです。完璧な壺は，いつも自分を誇りに思っていました。なぜなら，彼がつくられたその本来の目的をいつも達成することができたから。ひびわれ壺は，いつも自分を恥じていました。

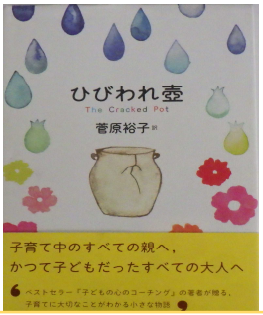
２年がすぎ，すっかりみじめになっていたひびわれ壺は，ある日，川のほとりで，水くみ人に話しかけました。

「わたしは，自分が恥ずかしい。そして，あなたにすまないと思っている。」「なぜ，そんなふうに思うの？」水くみ人はたずねました。「何を恥じているの？」「この２年間，わたしは，このひびのせいで，あなたのご主人様の家まで半分の水しか運べなかった。水がもれてしまうから，あなたがどんなに努力をしていてもその努力が報われることがない。わたしはそれがつらいんだ。」壺は言いました。

水くみ人はひびわれ壺を気の毒に思い，そして言いました。

「これからご主人さまの家に帰る途中，道端に咲いているきれいな花を見てごらん」天秤棒にぶら下げられて丘を登っていくとき，ひびわれ壺は，おひさまに照らされて美しく咲き誇る道端の花に気づきました。花は本当に美しく，壺はちょっと元気になった気がしましたが，ご主人様の家に着くころには，また半分水をもらしてしまった自分を恥じて水くみ人に謝りました。すると彼は言ったのです。

「道端の花に気づいたかい？花が君の側にしか咲いていないのに気づいたかい？ぼくはきみからこぼれ落ちる水に気づいてきみが通る側に花の種をまいたんだ。そしてきみは毎日，ぼくたちが小川から帰る途中水をまいてくれた。この２年間，ぼくはご主人様の食卓に花を欠かしたことがない。きみが，あるがままのきみじゃなかったら，ご主人様はこの美しさで家を飾ることはできなかったんだよ」（原文より）



子育て中のすべての親へ
かつて子どもだったすべての大人へ
菅原裕子：訳（二見書房）

虹色の色彩豊かな挿し絵にも癒されるすてきな本です。峰小図書室にもあります。